



この「まちづくりニュース」は、「からとまちづくりワークショップ」の開催内容や参加者の意見、取りまとめた成果などを市民の皆さまにご報告するために発行しています。

第3回テーマ

エリアごとの役割や方向性を考えよう！
【地区の性格を見える化する】

3月15日(日)、下関市役所にて、「第3回からとまちづくりワークショップ」を開催しました。「からと」の“これから”を考えるためのワークショップで、今回は17名にお集まりいただき、3グループに分かれて検討していただきました。

最初に、9階のエレベーターホールに移動し、「からと」のまちを上から眺め、これからのまちの姿を思い描いていただきました。

続いて、過去2回のワークショップを振り返った後、「からと」のまちづくりについて、「観光」「商業」「暮らし」の3つの視点から、参加者の皆さまの考え方を旗揚げアンケート方式でお聞きし、全体で意見交換を行いました。

その後はグループに分かれ、第1回で作成した「とっておきの場所・残念な場所マップ」

を参考に、「観光」「商業」「暮らし」に役立ちそうな場所を選び、大きな地図上にシールを貼り付けました。そして、シールの集まり方を手がかりに、「人が集まりそう」と感じるまちの中心(おへそ)を探し、そこを起点としたエリアの広がり方や、具体的な活用アイデアを出し合い、その成果をグループごとに全体の場で発表していただきました。

最後に、感想カードをご記入いただき、第3回のワークショップを終了しました。

2025年度のワークショップは今回で終了となりますが、2026年度以降も市民の皆さまと一緒にまちづくりの検討を進めてまいります。次回の開催については、改めてご案内いたしますので、引き続きのご参加をお待ちしております。

第3回プログラム

ステップ1：はじめに

ステップ2：旗揚げアンケート

ステップ3：3つの視点から『からとまちづくりの中心』を考えよう

ステップ4：グループ発表

ステップ5：まとめ

ワークショップの様子



※本ニュースに掲載している、当日参加者の皆さまにご記入いただいた内容については、内容の趣旨を尊重するため、明らかな誤字を除き、原文のまま掲載しています。

旗揚げアンケートで「からと」の将来を考えよう

「からと」のまちづくりについて、観光・商業・くらしの3つの視点から、いくつかの問を投げかけ、それぞれの論点について参加者の皆さんの考えをお聞きしました。



観光の視点から

① 「からと」の賑わいには観光客の存在が大きいと、観光客に向けたまちづくりを積極的に進めることが大切だと思う。	5人
② 観光客をひとまとめに考えず、海外、市外、市内など、訪れる人の違いに合わせた対策をすることが大切だと思う。	0人
③ 観光客と地域住民がうまく共存できるよう、エリアを分ける工夫をするなど、バランスの取れたまちづくりが大切だと思う。	5人
④ 観光客が増えすぎることによる暮らしへの影響も考え、観光客の受け入れは慎重に進めることが大切だと思う。	0人
⑤ その他	7人

⑤を選んで

参加者1:「エリアを分ける工夫」が引っかかりました。エリアを分ける必要はないと思います。

参加者2:私は海響館前に住んでいますが、唐戸に向かって清掃が出来ていません。市役所に聞くと下請けに任せていると言われましたが、この3年以上、清掃していません。私も80才を過ぎて自分の周りの掃除しかできません。観光客の方がよく降りる場所なので、一番目に付きます。

参加者3:気持ちは③に近いですが、「エリアを分ける工夫」に引っかかりました。

参加者4:私も「エリアを分ける」ところに引っかかりました。③に近いですが、まずは地域住民が大事だということで⑤にしました。

参加者5:今、暮らすように旅をするというキーワードがあるぐらい、観光客が地域住民の豊かな暮らしを見ることが一つの観光の風景になっています。そういうまちづくりがいいと思うので、エリアを分けない方がいいと思いました。

参加者6:下関に帰ってきてからいろんなことを考えて、下関に投稿したこともあります。それを取り上げていただいたのは何回ぐらいでしょうか、ずいぶん前のことになります。他と比べて、どうにかするのは難しい時代だったと思います。今、これほど観光客が多くなった唐戸地区を見ると、これでは大変だと思っています。皆さま、どうかよくご検討くださいませ。

参加者7:基本③です。「エリアを分ける工夫するなど」の「など」の部分をいろいろ考えていたらいいと思います。ただ分けすぎると難しいとも思います。

①を選んで

参加者8:この設問の中では振り切った回答だったので選びました。間違いなく唐戸にとって観光は大事な特徴だと思いました。もちろん住民であるということは前提です。下関を知らない人が日本中にはいっぱいいます。





商業の視点から

①	地域住民に愛される商店街の再興を目指し、日々の暮らしを支えるお店を充実させることが大切だと思う。	4人
②	観光客向けのお店と地域住民向けのお店がバランスよく揃ったまちを目指すことが大切だと思う。	6人
③	昔ながらの商店街の良さを取り戻したり、「唐戸はれて横丁」のような新しいお店づくりをするなど、人を惹きつけるアイデアが大切だと思う。	3人
④	誰向けかを考えるよりも、例えば、行列のできるようなお店を呼び込むなど、多くの人が集まるような工夫が大切だと思う。	3人
⑤	その他	1人

⑤を選んで

参加者1:私は唐戸住民でもなく商業をしているわけでもなく、今の状況が唐戸だけの問題ではないということで、答えを出しかねました。

③を選んで

参加者2:迷うような回答が多く、②も③もいい。商店街は廃れていく一方ですけれども、昔の商店街は楽しかった、そういうイメージで地域住民と密接につながった、やりとりしながら楽しく買い物できるお店も欲しいです。それだけではだめで、④につながるとは思いますが新しいアイデアを入れて新しいまちづくりをしていかないと発展していかないと思います。

参加者3:昔ながらの商店街の良さというのがすごくいいと思います。唐戸らしさは人それぞれ違いますが、歴史がある分、都市とは違う何かディープなところがあるのではないかと。ただそればかりではだめで、例えばスイーツ通り、和菓子通り、伊勢のおかげさん横町のような、新しいものが窓口になりながら継続していけば面白いと思いました。

④を選んで

参加者4:人が集まらないとまちが元気にならないので、人が集まるお店を持つてくるのが手取り早いということ。③④の二つが相まって④が先かと思いました。

①を選んで

参加者5:今、サンリブが閉店して唐戸に人が集まらなくなり、生活に必要なものが唐戸で揃わない状況を何とかするのに数年はかかるだろうから、最優先ということで①を選びました。

参加者6:うちの子ども二人は今、東京に出ていますが、唐戸に育てられたと思っています。食事が済んだら主人がすぐに唐戸の本屋さんに来て行っていました。昔のように、おもちゃ屋さんや本屋さんがあるような唐戸であってほしいと思います。唐戸は教育の場として良かったと思っています。どこでもきちんと生活できたのは、唐戸があったからだと思っています。昔の唐戸を取り戻してください。

②を選んで

参加者7:観光客は土日しか来ないので、年中、人が集まる町にするには下関市民が集う場所でないといけない。日常生活があり、プラスアルファで観光だと思っています。唐戸界隈の賑わいのためには観光対策は重要なポイントです。高齢化して若い人がいないのが重要な課題です。若い人に来てもらい新陳代謝できれば、ずっと町は生き続けます。その根っこが解決されなければなかなか難しいと思うので、ワークショップなどでそこを考えるのが重要だと思います。

参加者8:海側から唐戸側に渡ってくる方法がない。横断歩道では時間内に渡りきれない人もいます。唐戸には食べる場所もあるので、何力所かにエレベーターをつくっていただき、移動しやすい方法を考えていただきたい。



くらしの視点から

①	高齢者の方々が、安全で安心して暮らせる住環境づくりを第一に考えることが大切だと思う。	1人
②	「からと」に住む人を増やすため、特に若い世代や子育て世代が住みたくなるような魅力づくりが大切だと思う。	7人
③	新しい建物を整備するよりも先に、地域に住む人同士のつながりを育むことが大切だと思う。	2人
④	歴史や風景の良さを活かした住環境を整え、結果としてそれが観光にもつながるようなまちづくりが大切だと思う。	7人
⑤	その他	0人

③を選んで

参加者1:①から④まで全て当てはまります。この1年ぐらい町を見てきた中で、いろんな方々とのふれあい町が作られていることがよく分かりました。人それぞれ考え方が違い全てを一緒にすることはできませんが、人と人とのつながりが一番大事で、そこからまちがつくられていくと思いました。

②を選んで

参加者2:息子が一人いますが、学校を出ても仕事がないと福岡に行きました。就職し結婚して帰ってきません。娘も二人いますが、その子達も学校を終えたらすぐに福岡に行きました。私が年を取ったので、今は定年を早めてこちらに帰ってきて同居しています。やはり若い人を足止めしておくには仕事がないといけない。

参加者3:唐戸周辺で人を増やす。若い世代が増えると税金が増え、雇用も増えると思います。私には1歳の子供がいますが、同級生がいなくて寂しく、赤ちゃんを見かけない町になっています。昔はどこにもぎやかな笑い声や、走っている子どももいたので、それが全くないので、そういう住民が増えればいいと思います。

参加者4:高齢者の移住や、今の話のように帰って来ておじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住めたり。出ていた人が戻ってくるためには仕事が必要。まずは3年ぐらい観光をやって、先ほど唐戸に育てられたという発言がありました。若い力が次につながっていくのかなと思いました。

④を選んで

参加者5:文化的、歴史的な資産が多くあるので、それを生かす形でアピールできたらいい。カモンワークから南部町郵便局辺り全体を横断歩道にしてどこでも渡れるようにしてはどうかと思います。交通的な問題はあると思いますが、日本一幅の広い横断歩道があるとアピールできたら、また一つの目玉になると思いました。

参加者6:②もすごく重要だと思いますが、下関全体の人口が減っている中で唐戸の人口を増やすのは現実的には難しいので、いろんなところから人を集めて唐戸が栄えるのではないかとこの発想です。唐戸に仕事や遊びで来ていただき、観光や歴史を軸にインバウンドや観光に力を入れて経済的に発展できればいいと思います。

参加者7:下関グランドホテル前の三叉路を高架スタイルにすれば、人の移動も車の通行もしやすい。人が渡るにはエレベーターがいいと思います。人と車の流れ、道の通り方も考え、既存の歴史ある場所は十分残せると思います。

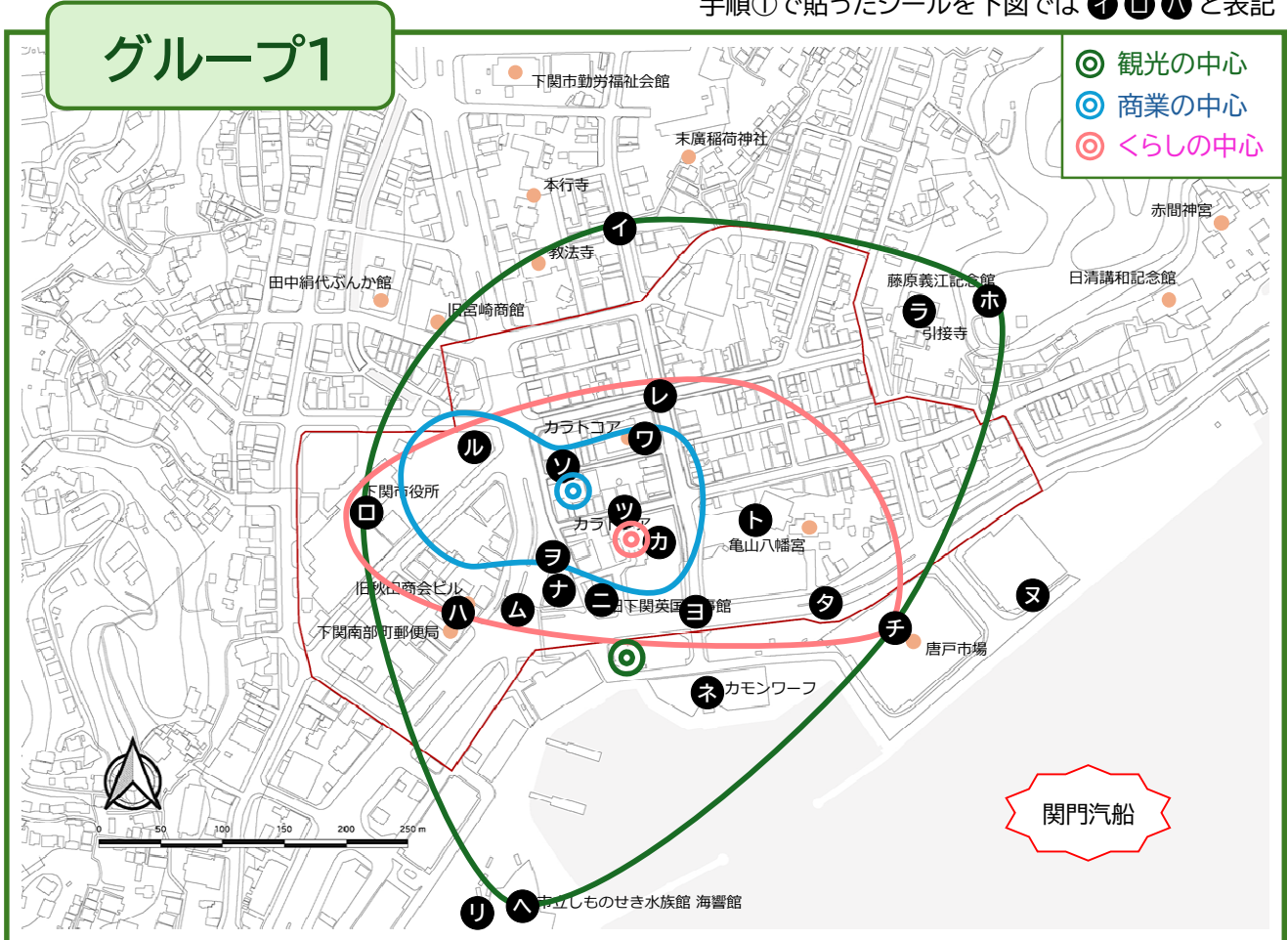
参加者8:私は大学4年間以外、ずっと下関市役所のそばで生活しています。こちら辺りの小学生たちは、歴史などを勉強します。関門橋、空也上人の井戸、伊藤邸などが生活の中にあることで誇り高く生活して大きくなりました。そういうところをずっと残してほしい。残してもらうための整備は必要。電柱の埋設をすれば道路が広くなり人も車も動きやすくなり、景色もきれいに見せられて、どんどん住環境もよくなると思います。その結果、観光客がこちらの方にも来やすくなる。市場だけではなく中の方にも見るものがあることを知ってもらいたい。

3つの視点から考えよう

以下の作業手順で「からとのまちづくり」について、考えていただきました。

- ① 「観光」「商業」「暮らし」の視点で役立ちそうな場所を選び、シールを地図に貼る。
- ② それぞれの視点で「まちの中心(おへそ)」を決め、その広がりマジック(3色)で描く。
- ③ その場所を選んだ理由や活用のアイデアを書き出す。

手順①で貼ったシールを下図では **イ** **ロ** **ハ** と表記



役立ちそうな場所

● 観光 ● 商業 ● 暮らし (丸数字はその場所を選んだ人数)
例) ① ② ⇒ 「観光」の視点で選んだ人が1人、「暮らし」の視点で選んだ人が2人

- イ** 桜並木 ① ②
 - 観光客にもっとアピールを。
 - 満開時はとてもきれい。
- ロ** 市役所(市役所広場) ① ① ①
 - 景色開放。高い所からどこに何がある等。
 - 唐戸商店街とあわせて飲食店エリアとして充実させる。
- ハ** 旧秋田商会ビル ② ①
 - + 南部町郵便局。歴史的価値。
- ニ** 旧下関英国領事館 ①
 - 英国との協調をアピールできる場所
- ホ** 藤原義江記念館 ①
 - 地元民の味わう海峡の景色を観光客も共有できる。
- リ** 海響館 ② ②
 - 海響館の有無で来関人数に響く。
 - 市の観光の目玉的存在
- ト** 亀山八幡宮 ⑤ ① ①
 - 地元民の味わう海峡の景色を観光客も共有できる。
 - 土日祝日にはとても沢山の観光客が来られる。
 - 風鈴まつりの時期には暑い最中でも参拝者は多い。
 - 歴史ある史跡であり、住人が心を寄せる姿はどの人にも心を打つ景色。
 - スイーツ、飲食
 - 貞観元年よりこの地を見守ってきた大切な神社
- チ** 唐戸市場 ② ③ ②
 - 下関を代表する施設
 - 既存のshop機能あり
 - 市民の台所であり、観光客のたのしみ。
 - 市場機能を内陸にも分散させたい。
 - 新鮮な魚を購入できる。
- ル** あるかぽーと ② ①

- ⑧ ボードデッキからの眺め ② ①
 - 唐戸市場前のデッキのエリア。人気エリアとして人流が多い。

- ⑨ 名所めぐり ①
 - ありすぎる。名所を知る、興味。高齢者観光案内ボランティア←バスがただになる特典。下関サービスカウンター。

- ⑩ 唐戸公園 ①
 - 観光広報基地

- ⑪ 魯山亭跡 ① ① ①
 - 唐戸の暮らしを体感できる。

- ⑫ サンリブ唐戸 ① ③ ②
 - 地元の暮らしと観光客(来街者)との結節点
 - 人が集まる、子どもが集まる。室内あそびモービィ。雨で観光できなくても子どもへの思い出づくり。
 - 地元の暮らしを支える商業の核的立地
 - 新しいショップでのフリースペースの活用
 - 公民館、包括

- ⑬ 渋滞への対策 ① ②
 - スクランブル。観光客の道路誘導。棕野トンネルより右に曲がって入り江。体育館=むかし

- ⑭ 国道9号 ① ①
 - 人工地盤や道路の高架化などでWFと地元との一体化
 - 商業とは少し離れた場所

- ⑮ 唐戸商店街 ③ ④
 - 地元の人がある
 - 時々、歩行者天国になど。
 - にぎやかになって欲しい。
 - 唐戸商店街周辺。静かに落ち着ける場所。
 - 美味しい店がある。昔に比べると日用雑貨を購入できるお店がない。

- ⑯ 一龍軒、桃太郎 ① ①
 - コミュニケーションのある(人的接触)購買行動
 - 徒歩でこそ味わえる購買活動を促進したい。

- ⑰ 野村製菓、三好屋の通り ②
 - コミュニケーションのある(人的接触)購買行動

- ⑱ カモンワーフ ①
 - 応援の仕方により唐戸地区では大きなドル箱になれる。

- ⑲ バス停 ②
 - 車が使えない人は必須である。

- ⑳ 引接寺 ①

- ㉑ 歩道橋 ①

- ★ 関門汽船 ①
 - 関門連携の要。関門海峡のすばらしさを示してくれる。

※唐戸のくらしは商業機能、魚の市場、海峡の景観と分離できない

おへそプロジェクト <選んだ理由や活用のアイデア>

観光

- 唐戸らしい地元の暮らしを観光資源として育てたい。
- 路地を生かした商店街を形成して、楽しい空間づくりをしたい。
- 観光場が多い為、それを広報、誘導する施設。バス、各駐車場がある。
- インフォメーション機能のある場所を作る。
- 外国語対応標識。
- 関門連携。海峡の素晴らしさを実感。
- たいこ橋
- 9号線を高架化。

商業

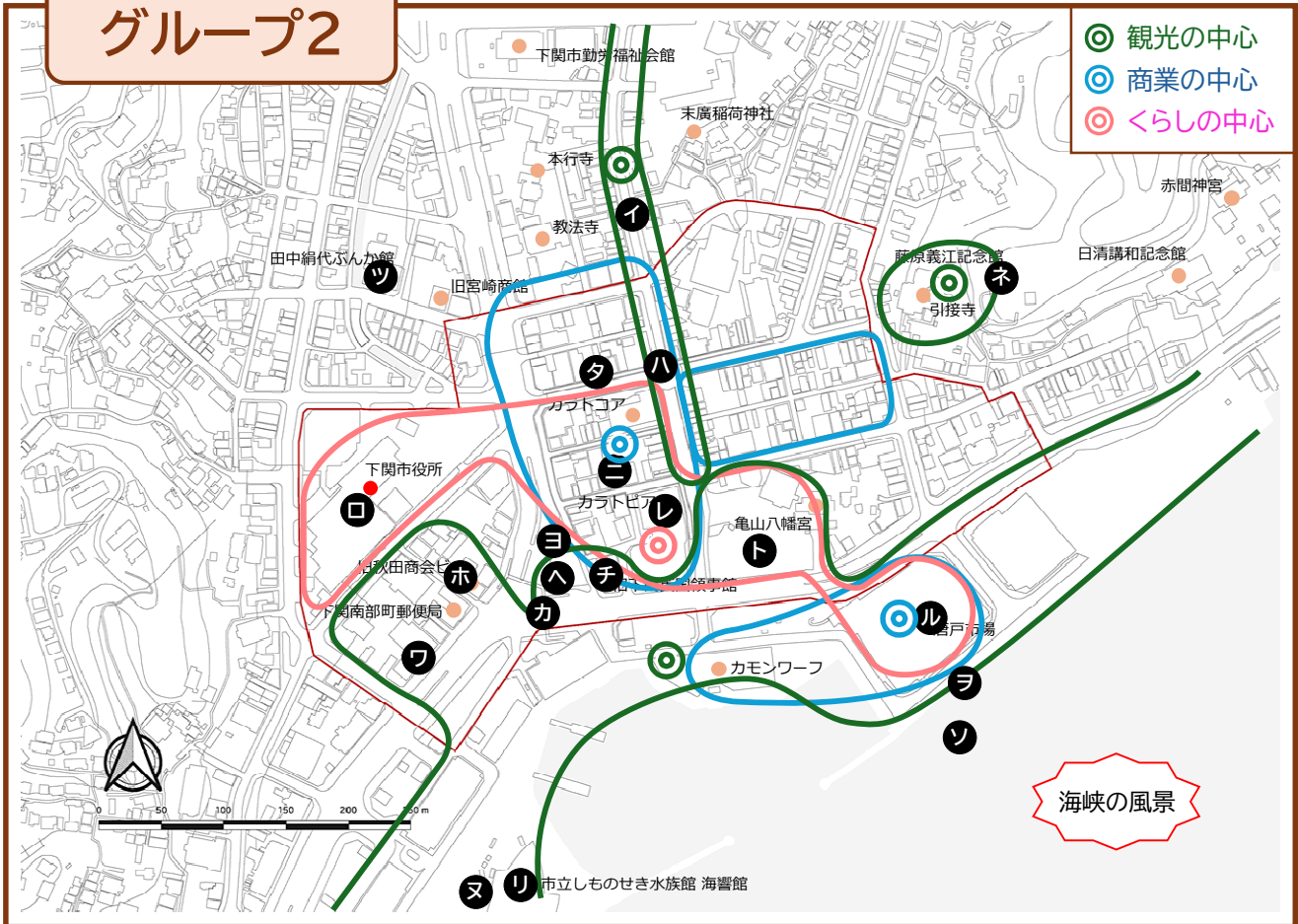
- 飲食
- 最小限、生活必需品が揃うように店舗を。
- 個別のショップを充実して、エリアに分散して運営する。

くらし

- 唐戸商店街全体でスーパーの機能を持たす。
- 唐戸の暮らしは商業機能と表裏一体。
- 市場の機能を内陸に一部分散させて、暮らしの一部とする。
- 老人が集まる部屋
- タクシー乗り場
- カラトピア=包括センター、室内子どもの遊び場(モービィ)、飲食、薬局
- 唐戸全体のスクランブル交差点化で自由に渡れる。



グループ2



役立ちそうな場所

●観光 ●商業 ●くらし (丸数字はその場所を選んだ人数)
例) ② ① ⇒ 「観光」の視点で選んだ人が2人、「くらし」の視点で選んだ人が1人

- ① 桜並木 ② ①
 - 春は人が集まる。
 - 商店街の桜並木は有効
 - 大変だけどコミュニケーション
- 市役所(市役所広場) ① ②
 - お昼の集客
 - 便利
- ▲ 唐戸商店街 ② ③
 - 匂い
 - +「一龍軒、桃太郎」+「野村製菓、三好屋の通り」
地域住民のための商店、ソウルフード。
 - +「一龍軒、桃太郎」+「野村製菓、三好屋の通り」
地域住民のための商店、ソウルフード。
- 野村製菓、三好屋の通り ① ①
- ⌂ 旧秋田商会ビル ③ ①
 - 歴史ある建物
- ▲ バス停 ① ① ④
 - 必要
 - ここを起点として、市内どこへも行ける。
- ⌂ 亀山八幡宮 ③ ① ②
 - 氏子として大切な所
 - お祭り。1年通して。
 - 一年の行事に根づいた生活。
- チ 旧下関英国領事館 ①
- リ 海響館 ③
 - 人を呼べるスポット
- 又 あるかぼーと ① ①
- ル 唐戸市場 ④ ④ ①
 - 土日、人が集まる。
 - 国内の観光客向け
 - インバウンド。観光客向けの商店。
- ヲ ボードデッキからの眺め ②
- フ ナフコ跡 ②
- カ 歩道橋 ① ①
- ≡ 唐戸公園 ①
- タ 旧中野書店 ①
- レ サンリブ唐戸 ① ①
- ソ 唐戸市場前の海 ①
- ツ 田中絹代ぶんか館 ①
- ネ 藤原義江記念館 ①
- ★ 海峡の風景 ①
 - 他にはない

おへそプロジェクト <選んだ理由や活用のアイデア>

観光

- ①引接寺=中華系のインバウンド等
- ②桜並木(商店街)=余り認知されていない。桜のトンネルが美しい。落ち葉の仕舞いが大変。
- ③バイエリア(ボードデッキ)=大型船が行き交う風景は他では見ることが出来ない。

商業

- ①唐戸市場、カモンワフ=国内外の観光客が多い。休日に多い。平日も増えると良い。
- ②唐戸、赤間本通り、ふれあい通り、銀天街=地域住民の利用する商店が多い。ドーナツ化で住民が減り、シャッターを下ろした店が増える。

くらし

○市役所、郵便局、商店、バス停、銀行、神社が集まっている=くらしに必要な機能が至近の距離にそろっていて生活がしやすい。交通の便が良い。



1グループの作業シート



2グループの作業シート



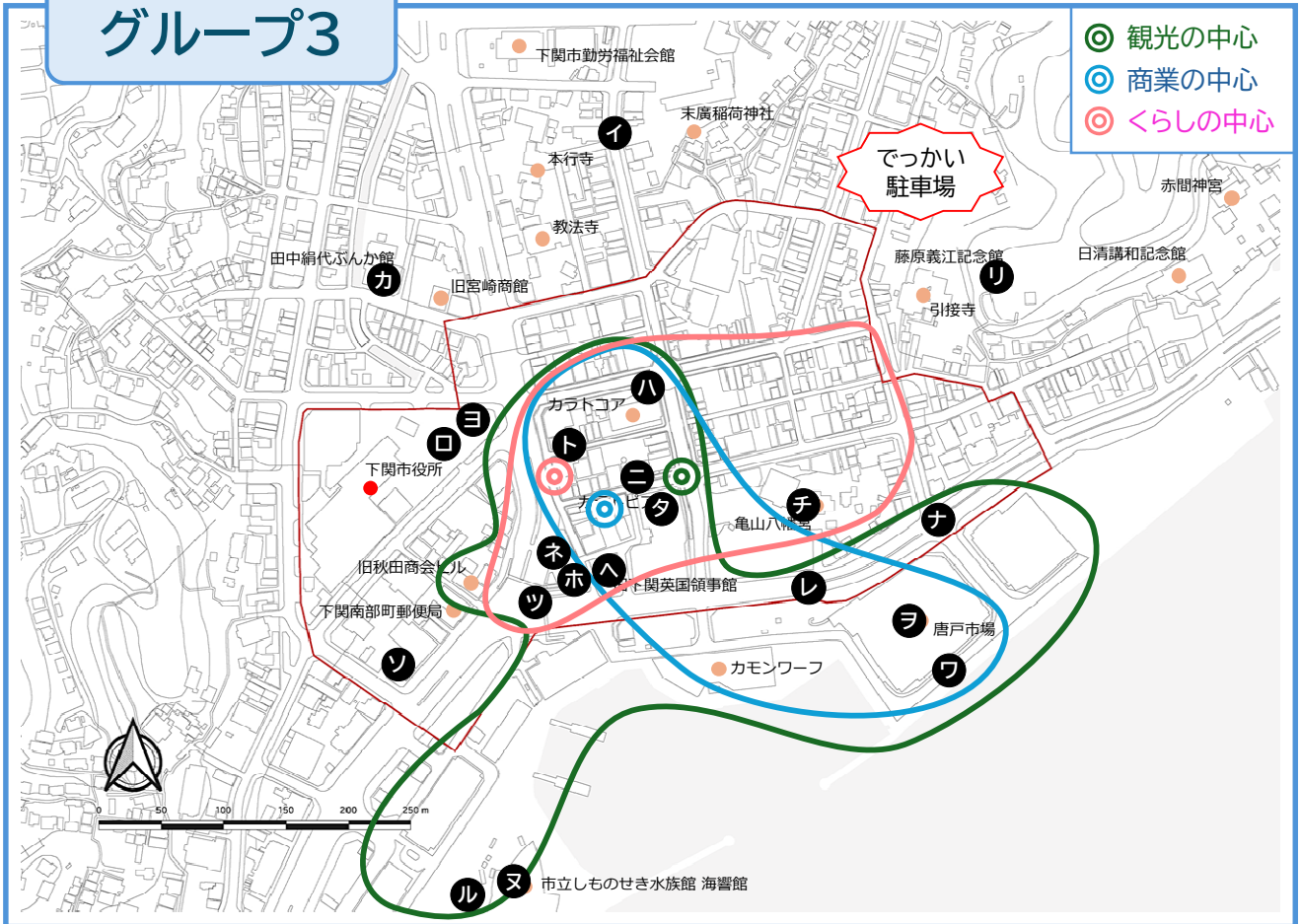
ステップ4(資料4) グループシート

<ポイントの活かし方>		<おへそプロジェクト>	
活用のアイデア		おへその理由	理由と具体的なイメージ
観光		観光	<ul style="list-style-type: none"> ① 引接寺の観光客を呼び込む ② 桜並木の観光客を呼び込む ③ バイエリアの観光客を呼び込む
商業		商業	<ul style="list-style-type: none"> ① 唐戸市場、カモンワフの観光客を呼び込む ② 唐戸、赤間本通り、ふれあい通り、銀天街の観光客を呼び込む
くらし		くらし	<ul style="list-style-type: none"> ① 市役所、郵便局、商店、バス停、銀行、神社の集まるエリアを呼び込む ② 唐戸市場、カモンワフの観光客を呼び込む ③ 唐戸、赤間本通り、ふれあい通り、銀天街の観光客を呼び込む

ステップ4(資料4) グループシート

<ポイントの活かし方>		<おへそプロジェクト>	
活用のアイデア		おへその理由	理由と具体的なイメージ
観光		観光	<ul style="list-style-type: none"> ① 引接寺の観光客を呼び込む ② 桜並木の観光客を呼び込む ③ バイエリアの観光客を呼び込む
商業		商業	<ul style="list-style-type: none"> ① 唐戸市場、カモンワフの観光客を呼び込む ② 唐戸、赤間本通り、ふれあい通り、銀天街の観光客を呼び込む
くらし		くらし	<ul style="list-style-type: none"> ① 市役所、郵便局、商店、バス停、銀行、神社の集まるエリアを呼び込む ② 唐戸市場、カモンワフの観光客を呼び込む ③ 唐戸、赤間本通り、ふれあい通り、銀天街の観光客を呼び込む

グループ3



役立ちそうな場所

●観光 ●商業 ●暮らし (丸数字はその場所を選んだ人数)
 例) ② ① ⇒ 「観光」の視点で選んだ人が2人、「商業」の視点で選んだ人が1人

- ① 桜並木 ② ①
 - 今後の可能性
- 市役所(市役所広場) ① ①
- ▲ 唐戸商店街 ③ ⑤ ④
 - 以前の商店街のように活気づけば、地元の生活風景が観光になる。
 - 今後の可能性
 - 観光客も呼び込めば、商業活性化になる。
 - 住民の日常生活を支える。
- ≡ 野村製菓、三好屋の通り ①
- ⚡ バス停 ① ① ②
- ▲ 旧下関英国領事館 ① ①
- ト 一龍軒、桃太郎 ①
- 手 亀山八幡宮 ③
- J 藤原義江記念館 ① ①
 - 移設
- ⊗ 海響館 ③
- ル あるかぼーと ② ①
- ㊦ 唐戸市場 ④ ⑤ ③
 - 市場は下関の歴史を語るとともに観光客も引きつける。
 - 観光客も地元住民も訪れ交流できる。活性化につながる。
 - 唐戸の象徴
- ㊧ ボードデッキからの眺め ①
 - 海峡の風景は下関を印象づける観光資源
- カ 田中絹代ぶんか館 ① ①
- ≡ 名所めぐり ① ①
- 夕 サンリブ唐戸 ① ④
- レ 渋滞への対策 ② ①
- ソ ナフコ跡 ①
- ツ 歩道橋 ①
- ネ 唐戸公園 ①
- ナ 国道9号 ①
- ★ でっかい駐車場 ① ① ①

おへそプロジェクト <選んだ理由や活用のアイデア>

観光

- 観光が海岸エリアに偏っているので、唐戸商店街の方に核を移す。
- 今日、この場にいる人にとって「唐戸」のイメージは商店街だから。
- 唐戸の中心は商店街というイメージが強い。
- 例えば田中絹代会館、藤原義江記念館は移設する。
- 亀山八幡宮と赤間神宮をつなぐ参道を桜並木にする。

商業

- もともと(歴史的に)商業の核だから。
- 駐車場を商店街側につくる。
- 観光と商業の中心を唐戸商店街に戻したい。
- バス停は交通機関。利用の要。
- 観光客と地元民が交流する。
- 広域の中で回遊ルートを作る。

くらし

- 「くらし」と「商業」が切り離せない。その中心がやっぱり唐戸商店街なので。
- 朝夕の買い物が出来る場所。店があって欲しい。
- 年寄りの集まる場が必要に思う。
- 以前のように子どもが育つまちを取り戻す。



3グループの作業シート



ステップ4(資料4) グループシート		グループ(3)	
<ポイントの活かし方> 適用のアイデア		<おへそプロジェクト> 理由と具体的なイメージ	
観光		観光 観光の核を唐戸商店街に移動させる。 唐戸商店街の活性化を図る。	観光 唐戸商店街の活性化を図る。 観光客と地元民の交流を促進する。
商業		商業 唐戸商店街の活性化を図る。 商業の核を唐戸商店街に移動させる。	商業 唐戸商店街の活性化を図る。 商業の核を唐戸商店街に移動させる。
くらし		くらし 唐戸商店街の活性化を図る。 観光客と地元民の交流を促進する。	くらし 唐戸商店街の活性化を図る。 観光客と地元民の交流を促進する。

グループ発表

「中心(おへそ)」として選んだ理由や活用のアイデアを全体場で発表していただきました。

「観光」のおへそ

- カモンワーフ、亀山さんの前に人やバス、車が集まり、分散していく。
- 観光する場所はある → 紹介する場所をつくったらいい。

「商業」のおへそ

- 唐戸商店街やカラトピアの辺りにもっと飲食があればいい。
→ 飲食の充実：個人がどんどんチャレンジできるといい。

「暮らし」のおへそ

- カラトピア中に包括支援センターを移設してもらいたい。
- 2階は雨でも子どもが運動できる遊び場のようなものをつくる。
- 一番の狙いは暮らしの中に色々な世代の人が集まる場所。
- そこに薬局や飲食、暮らしに役立つものがあればいい。

1
グループ



「観光」のおへそ

- 桜並木は非常にいい場所だが意外と認知されていない。
- かねてから問題になっている落ち葉の仕舞いが非常に大変。
- 沿岸地域が一番のポイント
海峡を大型船が行き交う風景は他で見られないので、もっとアピールしないと
いけない。

「商業」のおへそ

- 唐戸市場やカモンワーフは集客力があり一番重要なポイント。
- 平日は観光客が少ないので、平日も人が増えればいい。

「暮らし」のおへそ

- 赤間本通り、ふれあい通り、銀天街の3本の筋は地域住民が利用する商店が多いが、シャッターを下ろした店が増えている。
- 出店したい人はいてもなかなか出店できない現状があるので、それを活用できる知恵が要る。
- ここには市役所、郵便局、商店街、バス停、神社、銀行など、生活する上で必要な機能が全部あるので、ここは非常に暮らしやすいまち。

2
グループ



「観光」のおへそ「商業」のおへそ「暮らし」のおへそ

- 商店街を“おへそ”としたい。
唐戸のイメージは商店街であり、それをこれからも変えたくない。
- 大切なものは景観や風景。
- 交通の要の唐戸のバス停は商店街の入口で暮らしの大切な場所。

☆参加して感じたこと

- 2018年に下関に来た私から見ても下関や唐戸のポテンシャルはまだまだあると思う。
- 唐戸エリアだけではなく、赤間神宮方面も含めて観光客の動きはあり、“横”の流れも大事ではないか。
- 桜並木は“縦”にあるが、横に桜並木があったらどうだろうか。
- 駐車場は海側にあるが、唐戸の中に大きい駐車場があったらどうだろうか。
- そが出発点になり人は動くのではないか。
- 今後、皆さんの声を価値あるものとして実現化していけばいいのではないか。
- 美しいまちは勝手にできあがるのではなく、私たちでつくるものだと思う。そういう気持ちを持つ人たちがつながり、まちの課題を話し合う機会をもっとたくさん持てたらいいと思う。

3
グループ



感想カード

ワークショップに参加して感じたことや言い足りなかったことなど、自由に書いていただきました。

ワークショップについて

- WSそのものは、いろんな意見が聞けて良かった。しかしWSの最終的な落としどころがわからず、やや不満は残る。これまでのWSの積み重ねの中から市、あるいはコンサルの視点からある程度のまちづくりの方向性など、選択肢として示せないか。また今回の市の事業としての「まちづくり」の範囲も示して欲しい。
- 意見は人それぞれの中、こういうワークショップで集まった時に、顔が見えるお付き合いや、意見が異なっても、その方の意見の裏付けがわかると、こちらも意見が変化したりして、とても自分の意見の考察が広がりました。ありがとうございました。
- 3回のお話し合いを通して「唐戸」の歴史、住民の想いを知ることができました。「何のために話し合うか」というより、話し合うことで一人ひとりが考えていくまちづくりになると良いと思いました。ありがとうございました。楽しいワークショップをお願いします。
- 仕事で出席できないですが、手が空けばまた出席させていただきます。
- (まだまだ)唐戸地域にお住まいの方、働いている方に参加して頂いて、このようなワークショップをしていくべきだと感じました。みんなで意見を出しあって、住みやすいまちになればと思いました。参加者は少ないですが、とても良い意見を聴くことができました。ありがとうございました。
- ワークショップに参加された方々は唐戸エリアに深い思い入れがあることが分かった。人数としては少なかったが、皆さんの意見、アイデアが活かせるまちづくりになればと思う。プログラムの内容が少し難しく、もっと議論の時間がほしかった。唐戸は全市民にとっても大事な地域なので、もっと広域の人にも参加を呼びかけるといいと思う。
- 「おへそ」を決める作業……今の唐戸の街の姿も、社会的な影響や流れ(価値観)の変化の中であるものだと思っているので、「こうすればいい」「こうなればいい」ということを表していくのは難しいと思いました。作業量が若干多すぎるかもと感じてしまいました。参加者の方向士で話す時間があまりなかったの。

もっと多くの人に参加する工夫を

- 毎回参加人数が少なく、出席者はだいたい同じ顔ぶれなのが残念です。もう3回目となりましたが、この活動がうまく実を結ぶことを切に願っております。
- 1回目、2回目に比べてより充実した議論が出来たと思う。また1回目よりも具体的なイメージが明確に出来たのが良かった。長いスパンか短い目標かが明確でなかった点は残念。若い世代の意見も欲しいと思った(中学生、高校生位の年代の意見もききたい)。即効性(2年以内とか)のある施策も必要(夢、ビジョンのみでなく)。
- 集まる人数が少ないことが残念!! もっとアピールして、地域の方以外の人でも参加できる様にすべきではないか? 唐戸の問題(在り方)は今後の下関の姿を決める重要なpointであると思う。
- とても良いワークショップだと思います。参加者の年齢を考慮した結果であると思います。肝心の若い人の考えがゼロになっているのが残念です。30年後、町にいる人たちの思いが聞きたいと思います。

●事務局より

今回は、ワークショップの冒頭で市役所の9階から「からと」を眺め、全体像を共有したうえで、「観光」「商業」「暮らし」の視点から、中心(おへそ)となる場所について考えていただきました。過去のワークショップを通じて寄せられた意見を、今後の検討に生かしていきます。

まちづくりのアイデア

- 若い人が帰ってくるような下関にしていきたい。がんばってください。87才です。
- 唐戸商店街の活性化は1番の問題だと思います。サンリブを統括センターにするなら商店街に八百屋、肉屋、魚屋、100均、本屋、洋服店など、サンリブ的なものを誘致し、店舗の集まりで商店街全体でスーパー機能にしてもらいたい。その資金を市でまかなって下さい!!
- 南部町に(商工会議所の金子みずぐさんの詩と写真)を書いた公園があります。荒れています。時々観光の人と会う事があり話をします。案内板が近くにあったらと思います。初めて参加しました。有り難うございました。
- 今回で3回目の出席です。あまり漠然として町作りのイメージでいつも参加を迷っていますが、そうしている間に唐戸から人がどんどん減っていき、現実の厳しさを感じています。だから最後まで参加して、これからの唐戸を見つめられたらと思います。
- 唐戸市場、市役所とさっぱりわからない。人口減、30万人から今は23万人に減少しています。歩いていくところがない。スーパー通いも大変ですね。後期高齢者にとっては死活問題です。なんとか生きていく予定です。
- サンリブの跡を、あらゆる事柄に使える市民ホールとして利用出来ないか。

下関市 都市整備部 市街地開発課 再開発係 TEL: 083-224-2025

ホームページURL: <https://www.city.shimonoseki.lg.jp/soshiki/75/140773.html>

